

ナチュラルガーデンって、なんだろう。

ナチュラルガーデンとは、庭の一つのスタイルではなく、植物が本来持っている自然の力を活かすための裏付けをもった庭づくりのことうです。見た目や雰囲気やスタイルではなく庭づくりの方法をさしています。

また、庭は人間が理想的な自然をもっとも身近で楽しむ場所なのだから、ナチュラルガーデンといえども放置してはダメです。いったん植栽したら手入れが必要です。

大きな特徴は3つあります。

● 植物の住環境を見極める。

植える場所をよく観察して、その環境に合う植物を選ぶことが大切です。日向か、日陰か、土は乾燥しているか、湿っているか、水はけのよさ、風の向きや強さなどをきちんと把握しましょう。そのうえで植える植物を選択すれば、植物は自分の好む場所で自分の力でしっかり育ってくれます。



● 農薬や肥料の助けは要らない。

人間はストレスをかかえていると、病気になりやすくなります。けれどそれは植物も同じです。それぞれの植物が自分の好む住環境に育っていればストレスは少なく、それだけで病気になりにくく、害虫にも強くなります。

現在実際に使われている農薬は、必要以上に使われているらしく、無駄に使われた農薬は人間にも悪影響を及ぼします。また、雨に流されて、最終的には地下水を汚染します。最近では、人間の食べるものも低農薬や無農薬を求める傾向ですね。

化学肥料は大战後、荒廢した土地でいかに効率的に食料を確保するかということで、研究が進み大いに頼りにされてきました。手軽な化学肥料で農作物は楽に大きく育つようになりました。しかし、それでよい性質の土になったということではなく、かえって荒れてしまいました。

そのうえ、化学肥料で短期間に大きくなった植物は、葉も茎も柔らかいから虫にとっては食べやすく、喜んで集まってきます。おまけにちよつとの風でも倒れやすくなり支柱が必要になります。

農薬や化学肥料を使うと、植物は楽に成長できるかわりに弱くなります。過保護になりどんどん手間がかかるようになってしまいます。与えるのではなく、自分で必要なものを探してもらう。植物は必要以上に大きく育たないかわりに、コンパクトにしっかり育ち、多少の環境の変化にも対応できる健康な株に育つ。人間と同じですね。



● 季節の変化を楽しむ。

植物は一年間をとおして、いろいろな表情を見せてくれます。柔らかくて複雑な色をした新芽、みずみずしくて、いろいろな形や色彩を持った葉っぱ、すっと立った姿に生命力を感じるし、もちろん花も美しい。そして花のあとには実がなるものもあるし紅葉が美しい植物もたくさんあります。さらに、シーズン終了後の枯れ姿でさえ感動的なシルエットを見せてくれます。加えて、朝露や変幻自在な風と日差しが、魔法のように植物を彩ってくれるでしょう。夕闇の中で漂ってくる香りも心地よいですね。

おまけに庭にはいろいろなお客さんがやってきます。鳥や虫たちが、季節の移り変わりを知らせてくれて賑やかになります。



この3つの特徴を満たせばそれはもうナチュラルガーデン。日本庭園でもイングリッシュガーデンでも木々は丸刈り込みでしまったり、柵づくりに刈りこんでしまうので無理かもしれませんが、草花はナチュラルな環境で育てることができますね。

あなたの和風な庭や洋風な庭の一角で季節ごとに変わる草花をナチュラルな環境で育ててみませんか？



引用：ナチュラルガーデンをつくろう！ 地元の素材で美しい風景を
著者 ポール・スミザー